〔指定管理者制度導入施設〕〔Ａ調書〕

事業評価調書〔途中評価〕（平成２９年度）

１．施設の名称等

施設名称	長崎歴史文化博物館
所在地	長崎市立山1丁目1番1号

事業所管課（室）長名	文化観光国際部	文化振興課
	本多　敏博	

総合計画上の位置づけ	基本戦略	2	交流を支える地域を創出する
	施策	（2）	文化・スポーツによる地域活性化
	事業群	①	文化・芸術による地域づくり

２．施設の概要

設置年月日	平成17年11月3日
設置法令等	長崎歴史文化博物館条例（平成16年10月15日）
設置目的	長崎固有の海外交流の歴史を一覧でき、長崎学研究の拠点として「交流・連携・発見」の基本理念のもと、開かれた博物館として地域振興に寄与する。
利用対象者等	主な利用対象者：県民及び県外観光客 開館時間：午前８時30分～午後7時、休館日：毎月第3月曜日
施設内容	敷地面積 13,852㎡　建築面積 5,091㎡　延床面積 12,239㎡ 施設概要 博物館本館、長崎奉行所復元建物、復元長屋、屋外イベント広場 収蔵品：約81,000点（旧長崎県立美術博物館:約4,500点、旧長崎市立博物館所蔵:約33,000点、県立長崎図書館所蔵:約43,000点）
施設の利用料金体系	○常設展示観覧料（単位：円／人）＜基本＞

	一般	高校生	小中生	備考
普通料金	600	400	300	
団体料金	480	320	240	15名以上
定期料金（１年間）	1,800	1,200	900	

○減免事項
※県内在住の小中学生は無料
※学校行事の一環とし、県内の小・中・盲・ろう・養護学校生が利用する場合には、引率教員を含め、無料
※障がい者手帳保持者及び介護者１名は無料

○貸し施設の料金

名称	面積（㎡）	単位	料金（入場無料の場合）
企画展示室	300	１日	18,000円
	215	１日	13,000円
ホール	178	１回	6,400円
講座室	66	１時間	600円
会議室	51	１時間	500円
イベントの間（広間１）	18	１回	1,100円
（広間２）	22	１回	1,300円
（次の間）	7	１回	450円
（待合）	15	１回	900円
（小間）	25	１回	4,500円
（野点スペース）	37	１回	2,200円

※入場料有料の場合は、無料の場合の倍額
※１日を
9:00～13:00,
13:00～17:00,
17:00～21:00
の３つに区分し、それぞれを１回とする

○駐車場利用料

名称	種別	料金	単位
駐車場（一般）	昼間（ 8:30～ 22:00)	140円	円／30分
	夜間（22:00～翌8:30)	800円	円／１泊
駐車場（バス）	昼間（ 8:30～ 22:00)	600円	円／30分
	夜間（22:00～翌8:30)	2,000円	円／１泊

類似施設の設置状況

施設名	茨城県立歴史館	千葉県立房総のむら	かわら美術館
入館料　一般	150円	300円	200円
大学生	80円	150円	200円
高校生	0円	150円	200円
小中生	無料	無料	無料
利用者数（H27実績）	96,948人	259,510人	38,047人
指定管理者制度導入	平成23年4月1日	平成26年4月1日	平成20年10月1日
管理運営負担金（27予算）	303,322千円	412,400千円	161,738千円
延べ床面積	8,987㎡	(敷地) 510,000 ㎡	4,669㎡
指定管理形態	管理＋学芸部門	管理＋学芸部門	管理＋学芸部門

区分（単位：千円）			平成25年度（実績）	平成26年度（実績）	平成27年度（実績）	平成28年度（実績）	平成29年度（計画）
県予算	財源	国庫					
		その他（諸収入）	176,727	182,057	174,277	172,730	177,729
		一般財源	201,304	192,293	174,278	172,729	177,729
	事業費＜Ａ＞		378,031	374,350	348,555	345,459	355,458
	内訳	管理運営負担金	348,238	358,485	348,555	345,459	355,458
		その他（事務費）	7,874	9,630	0	6,006	
	人件費＜Ｂ＞		34,888	36,301	36,252	36,189	36,333
	合計＜Ｃ＝Ａ＋Ｂ＞		412,919	410,651	384,807	381,648	391,791
	単位あたりコスト		1	1	1	1	1

（説明）「入館者１人あたりの運営費用」＝Ｃ÷（入館者数）

３．指定管理者の概要

指定管理者の名称等	≪所在地≫　東京都港区台場2丁目3-4 ≪名　称≫　株式会社　乃村工藝社 ≪代表者氏名≫			
指定期間	平成 ２８ 年４月１日　～　平成 ３４ 年３月３１日			
業　務	①施設（設備）の維持・修繕等 ②博物館の運営（企画展示、常設展示） ③博物館のマネジメント（集客、営業、PR、イベント企画等） ④ミュージアムショップ、レストランの経営			
利用料金制	■ 導入済　未導入	選定方法	■ 公募	非公募

４．成果指標の達成状況及び管理運営に要した経費等の収支状況

成果指標の達成状況		（目標値の根拠）	<２９年度実施における変更点>
	① 博物館満足度アンケート ② 本展・移動展や遠隔授業等の実施市町数 ③ 博物館入館者数（参考値）	①アンケート5段階評価における年間平均値において、80%以上の満足度を目指す。②美術館・博物館両館で5年間で県内全市町(21市町)で実施を目指す。	

実績		単位	平成25年度（実績）	平成26年度（実績）	平成27年度（実績）	平成28年度（実績）	平成29年度（計画）
①	a 目標値	平均値	4	4	4	4	4
	b 実績値	平均値	4.2	4.1	4.1	4	
	c 達成率b/a	%	105	102	102	100	
②	a 目標値	市町	-	-	-	3	2
	b 実績値	市町	-	-	-	7	
	c 達成率b/a	%	-	-	-	233	
③	a 目標値	人	460,000	465,000	470,000	-	-
	b 実績値	人	419,264	444,288	425,699	429,323	
	c 達成率b/a	%	91	95	90	-	

指定管理者の収支状況		事業計画（H 28 ）（千円）	実績－計画	平成25年度（実績）	平成26年度（実績）	平成27年度（実績）	平成28年度（実績）	平成29年度（計画）
負担金事業	県負担金	355,485	△ 10,026	348,238	358,485	348,555	345,459	355,485
	その他	565	△ 124	772	607	472	441	565
	収入計a	356,050	△ 10,150	349,010	359,092	349,027	345,900	356,050
	支出b	356,050	△ 10,150	349,010	363,481	349,027	345,900	356,050
	うち人件費	126,768	△ 5,018	119,950	128,772	126,665	121,750	127,108
	収支a-b	0	0	0	△ 4,389	0	0	0
その他事業	利用料金	91,799	8,923	101,647	115,807	89,661	100,722	94,854
	その他	47,250	△ 989	47,282	47,229	47,623	46,261	47,250
	収入計ｃ	139,049	7,934	148,929	163,036	137,284	146,983	142,104
	支出ｄ	132,211	8,503	151,849	158,459	148,473	140,714	134,236
	うち人件費	26,029	4,521	23,920	31,005	29,325	30,550	29,111
	収支ｃ-ｄ	6,838	△ 569	△ 2,920	4,577	△ 11,189	6,269	7,868
配置職員数（人）		常勤 22 非常勤 3	常勤 22 非常勤 3	常勤 22 非常勤 3	常勤 22 非常勤 3	常勤 22 非常勤 3	常勤 22 非常勤 3	常勤 22 非常勤 3

５．平成２８年度事業の実施状況・実績の検証

管理運営の状況	計画	実績
	<指定管理者実施分> １．負担金事業 ①光熱水費、施設維持管理事業 ②長崎学・生涯学習支援事業 ③調査研究事業 ④資料修復事業	＜指定管理者実施分＞ １．負担金事業 ①施設設備の保守点検、清掃、警備、樹木管理、修繕業務、受付案内等については、滞りなく実施された。 ②歴史資料を活用した文献センターとして、レファレンスサービス等を通じた利用者サービスを提供できた。 　県民の生涯学習を支援するため、れきぶん長崎学講座、長崎学エキスパート講座、館長ミュージアムトーク、文化財セミナー、れきぶんワークショップ、学校向けプログラム、遠隔授業、移動博物館、古文書修復技術講習会、古文書講座を実施した。 　　伝統工芸体験工房においては、長崎市の育成する５塾と連携し、「銀細工」、「長崎刺繍」、「ステンドグラス」、「陶芸／現川焼」、「染」を紹介し、制作実演とともに制作体験を提供した。 ③長崎の歴史文化に関する情報の調査計画の立案、博物館資料の現状把握に基づく記録の作成及び修理、調査報告に基づく講座、講演への展開計画の検討、調査成果のデータベース化の推進と公開、他博物館や他研究機関との連携推進等について、協定書に基づき進められた。 ④美術工芸資料や「近世青方文書」など計61点の資料修復を計画的に実施した。

管理運営の状況

２．利用料金事業 ①常設展示事業	２．利用料金事業 ①常設展入館者数は、一部展示替えを計12回実施したが、熊本地震の影響もあり、目標14万人の64%と目標達成に至らなかった。
②駐車場運営事業	②駐車場運営事業収入9,378千円、支出911千円であり、黒字収入を達成し、滞りない駐車場運営を行った。
③施設等貸し出し事業	③ホール・講座室・会議室等貸し出しを効率的に実施し、収蔵資料の貸し出し等についても適切な管理を行った。
３．その他自主事業 ①展覧会・企画展事業	３．その他自主事業 ①企画展では、上期（春・夏）に幅広い層の来館が見込めるものとして「篠山紀信展「写真力」」、「エヴァンゲリオン展」、歴史文化に関するものとして「アールヌーヴォーの装飾磁器展」、「没後150年　坂本龍馬展」、「よみがえれ！シーボルトの日本博物館」を実施したが、熊本地震の影響もあり、入場者数は目標の53%であった。
②ボランティア活用等事業	②ボランティアによる展示解説、奉行所寸劇を実施するなど、ボランティアの参画を推進した。
③ミュージアムショップ、飲食施設事業	③ショップ・レストラン営業収入46,262千円、支出49,636千円であり、若干の赤字となった。 　また、"長崎らしさ”にこだわったミュージアムショップの運営と「おもてなし」の場としてレストランを経営し、来館者に安らぎを提供するとともに、企画展関連グッズの販売と、関連メニュー提供を行い利用者のニーズに即した運営を行った。

検　　証

○管理運営業務は協定書に基づき実施されているが、H28年度の年間入館者数は、429,323人と熊本地震による上期の企画展観覧者や常設展の観覧団体の減少により、指定管理者が目標とした45万人を若干下回り達成できなかった。

○各種イベントやコンサートの開催、ボランティアによる奉行所寸劇、長崎学に関する各種講座・講演会等充実した企画を展開し、あらゆる年代からの集客を図った。

収支の状況

収支計画・実績

＜指定管理者実施分＞

（単位：千円）

主な項目		計画	実績	増減理由・収支改善の取り組み等
収入 a		495,099	492,884	
	うち負担金事業	356,050	345,900	負担金実績減に伴う設置者負担金の減
	うち利用料金事業	139,049	146,984	常設展入館者減に伴う収入の減
支出 b		488,261	486,614	
	うち負担金事業	356,050	345,900	光熱水費を節約したための減
	うち利用料金事業	132,211	140,714	展覧会経費及びショップ運営費増に伴う増
収支a-b		6,838	6,270	

＜県実施分＞

検　　証

○株式会社乃村工藝社を指定管理者としたことにより、県と連携して民間の企画やプロデュース、経営感覚を取り入れた運営がなされており、総入館者40万人台を維持している。

○負担金対象事業と利用料金対象事業を明確に区分することで、公立博物館としての質を保ちつつ、本県の文化レベルを向上し、来館者にも魅力ある館となるような運営が行われている。また、電気・ガスも使用料抑制のためのデマンド計管理等を行い、光熱水費の削減にも努めている。

○平成28年度の負担金事業では、各種保守業務の衛生設備等の契約見直し、清掃業務の見直しにより経費を縮減できたこと等により維持管理費全体としては、微減となった。一方で利用料金事業では、駐車場運営及び施設貸出の黒字により、入館者減により企画展、ミュージアムショップの収支が悪化したが、常設展や施設利用収入により利用料金事業全体で黒字に転じた。平成29年度は常設展・企画展ともに広報や営業により集客を図り、運営方法のさらなる効率化に努め、経営の安定及び地域活性化を図っていく。

指定管理者制度の導入効果を踏まえた施設の設置目的の達成状況の総合評価	A

（説明）
○博物館は「ミュージアム県・ながさき」の中核施設として、歴史・文化の魅力を発信し続けながらも、展覧会や教育普及活動の多彩な実践を通じて、新たな利用層の開拓を図り、また、オランダライデン国立民族学博物館や中国福建博物院、韓国釜山博物館等との交流を進め、常に“進化する博物館”を目指している。
　その結果、今期指定管理募集時に詠った目標年間利用者数40万人を上回る実績を残している。

○職員・ボランティアの研修等によって、利用者へのサービス向上が図られた結果、利用者へのアンケートによる満足度調査では、５段階評価で４と目標の４を達成した。

○企画展や飲食施設事業等による収入が予定より少なかったが、常設展や施設利用収入の増により自主事業、利用料金事業の収支が黒字となった。

６．平成２９年度事業の実施にあたり見直した内容

内　　容
○集客力のある企画展の開催 　幅広い年代の集客が見込める企画展を開催し、より多くの方々が歴史文化に触れる環境づくりを目指す。

７．平成２９年度事業の評価

	視点	評価	判定理由
指定管理者の行う管理運営等に関する評価	・施設の設置目的にあった管理運営が行われているか。	a	・常設展では、定期的に行う展示替えとひな祭りなどの季節に連動した演出、イベントを展開している。また、企画展では、『川原慶賀の植物図譜』といった長崎にゆかりのある展覧会を予定している。さらに生涯学習支援事業や調査研究事業等を、県内の学校や博物館と連携して実施するなど、基本方針に沿った運営が行われている。
	・住民の公平かつ平等な利用の確保が行われているか。	a	・利用料金の減免について明確な基準を作成し、ホームページで公開することによって、住民、利用者の公平かつ平等な利用を確保している。 ・遠隔地等で来館が困難な方々に対して、博物館の展示活動を通して長崎の歴史・文化に興味を深めていただくため、県内で移動博物館や遠隔授業・出張授業を実施している。
	・利用者に質の高いサービスの提供が行われているか。	a	・入館者アンケート調査によって、利用者の満足度を把握するとともに利用者の声を館の運営に活かすことで、サービスを向上させている。 ・ボランティアスタッフの研修を定期的に行い、サービスの質の向上を図っている。
	・施設・設備の維持管理は適切に行われているか。	b	・施設設備の保守点検、清掃等の実施については、協定書に基づき適切な管理が行われ、施設の機能は最低限維持されているが、開館から10年が経過し、施設の経年劣化が進んでいるが、予算の制約もあり、修繕計画どおりには実施できていない。
	・収入の確保に向けた取り組みが行われているか。	a	・博物館のイメージアップや利用者の年齢層を幅広くするための取り組みなど、利用者数の増加に繋がる工夫とともに、ミュージアムショップやレストランでの商品展開の充実がなされている。
	・経費節減に向けた取り組みが行われているか。	a	・企画展の共催や協賛金の獲得による経費節減、デマンドシステム等による光熱水費の節減を実施している。
	（その他の観点）　※評価区分（ａ：行われている　ｂ：一部行われていない　ｃ：行われていない）		

		視点	評価	理由
施設の在り方についての評価	必要性	・県民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか。	■ a.薄れていない b.一部薄れている c.薄れている	入館者のうち、約49%が県民であること、長崎学及び長崎の歴史文化の研究拠点であることから必要性は十分にある。
		・事業を取りまく環境、経済情勢などの変化に適応しているか。	■ a.適応している b.一部適応していない c.適応していない	長崎県内及び長崎市内の観光施設、地域活性化の核となり、文化を活かしたまちづくりの拠点となっている。
		・市町または民間に移管・移譲することが適当（可能）ではないか。	■ a.適当（可能）でない b.一部適当（可能）でない c.適当（可能）である	県と長崎市が連携して政策的に設置した博物館で、県内の博物館の拠点施設であるため、市に移譲すると県全体の施策の実施が不可能となり、民間移譲した場合は文化事業の継続性が保持できない恐れがある。
	効率性	・県の負担や業務量に見合った活動結果が得られているか。	■ a.得られている b.一部得られている c.得られていない	入館者数、展示の内容、長崎学講座等の実施状況ともに十分な成果がでている。
		・指定管理者制度以外で、同一の県負担や業務量でより大きな活動結果が得られる手法に代えられないか。	■ a.代えられない b.一部代えられない c.代えられる	旅行業者とタイアップしたバスツアー造成やボランティアによる奉行所寸劇等による集客対策、施設管理における経費節減への取り組みなど、指定管理者制度が有効に機能している。
	有効性	・指定管理者制度は、施設の設置目的の達成に十分寄与する手法となっているか。	■ a.なっている b.一部なっていない c.なっていない	施設・設備の適切な維持管理や利用者のサービス向上などの取り組みが行われ、建設基本構想時の入館者目標の20万人を大きく超える40万人以上で平準化している。
		・事業効果をさらに上げる余地はないか。	a.余地はない ■ b.一部余地がある c.余地がある	魅力ある企画展の開催により企画展とあわせて常設展への入館者数もさらに増加させるために、事業内容及び広報・マーケティング活動を充実させる必要がある。
	（その他の観点）			

８．平成３０年度事業の実施に向けた方向性

区　分		現状維持	■ 改善	移管	廃止

（説明：30年度事業の実施に向けた方向性の理由・見直しの内容）

○今後も入館者数40万人台を持続させるため、これまで蓄積した運営のノウハウを駆使するとともに、魅力ある企画展の開催により企画展とあわせて常設展への入館者数もさらに増加させ、利用者の高い満足度を維持しながら長崎の歴史文化・芸術を身近に学ぶ交流拠点施設、本県の歴史資源による地域活性化や県外への魅力発信の拠点として最大限活用する。また、県の中核館としての機能充実のため、県内全域における歴史文化・芸術に触れる機会の提供に取り組むことを目的として、県内各地で移動展や遠隔授業等を実施していく。

　そのため長崎市、指定管理者と連携し、県内外からの積極的な誘客活動や広報活動に取り組むとともに、長崎学の拠点として、調査研究活動の促進を図っていく。

○平成24年度に企画展「福建博物院展」を当館で実施したので、次回は福建博物院における長崎に関する展覧会を開催してもらうための協議の実施や、武漢市３館との交流を継続して実施していく。

○年々増加している外国人観光客に対応するため、多言語の音声ガイドシステム導入や旅行商品造成等により長崎の歴史文化に触れる機会の提供を目指す。

○魅力ある企画展の開催や広報・マーケティング活動を充実させ、企画展と常設展の入館者増を目指す。

（上段に加え、成果指標達成状況が「未達成」であるのに現状維持の場合はその理由を以下に記載）